

## 経歴要約

大学卒業後、約 25 年にわたりソフトウェアエンジニア・システム設計者・プロジェクトマネージャー・IT コンサルタントとして IT 業界に携わっています。

キャリアのスタートは株式会社リコーのプロパーとしての「文字認識技術の研究・開発」です。

途中、アメリカ・シリコンバレーのスタートアップ企業での活動などを経て、現在は個人事業「オフィス ORA」として中小企業向けに SI や IT 事業立ち上げサポートなどのサービスを提供しています。

また、様々なオープンソースプロジェクトに参加するなど、フルスタックエンジニアとしても現役で活動しています。

## 職務経歴

### 2001年6月 - 現在

#### 個人事業オフィス ORA 代表

- 様々な規模のプロジェクトに、IT コンサルタント・プロジェクトマネージャー・システム設計・システム開発・運用管理といった様々な形でサービス提供
- 主な実績は以下の通り（新しい順）
  - 株式会社リコー：システム設計・IT コンサルティング  
リコー社製のホワイトボード製品対応ソフトウェア配信プラットフォームの構築
  - 某オンラインアプリケーションプロバイダ：ソフトウェア開発  
サービス登録時本人確認書類画像の AI を活用した自動認識・分類ライブラリの開発
  - テックファーム株式会社：プロジェクトマネジメントサポート・システム設計・IT コンサルティング
  - 株式会社ロックオン：システム設計・ソフトウェア開発  
EC プラットフォーム「EC-CUBE」のメジャーバージョンアップに伴うプロジェクトに参加  
（通常時はオープンソース「EC-CUBE」のコントリビュータとして参加している）
  - 某ブロックチェーン技術応用サービスプロバイダ：ソフトウェア開発  
Bitcoin オンライン Wallet サービスのプロトタイピングを実施
  - 某オンライン中古レコード販売会社：外部 CTO として EC 事業の再構築を実施（5 年間に渡り実施）
  - 国内某スタートアップ企業：IT コンサルティング・システム設計・開発  
会員向けの Twitter ライクな SNS の設計・開発実施
  - 某印刷会社：IT コンサルティング・システム設計・プロジェクトマネジメント
  - 某オンラインコンテンツプロバイダ：IT コンサルティング・システム設計・プロジェクトマネジメント
  - 株式会社ユミルリンク：プロジェクトマネジメント・システム設計・開発（実際の顧客は株式会社サイボウズ）
  - アメリカ合衆国法人 Rafter Inc.：プロジェクトマネジメント・システム設計・開発
  - 某オンライン広告代理店：IT コンサルティング・システム設計・プロジェクトマネジメント
  - 日本 IBM 株式会社：プロジェクトマネジメント（実際の顧客はカルソニックカンセイ株式会社）
  - 某スポーツデータ収集・配信プロバイダ：IT コンサルティング・システム設計サポート
  - 某オンラインサービスプロバイダ：プロジェクトマネジメント・システム設計・開発
  - 松下電工株式会社：ソフトウェア開発  
ネットワーク管理用パケットアナライザーの開発を実施
  - その他
- 独自のオンラインサービスを開発・運営
  - Web アプリ/Web サイト/スマホアプリなどで利用する Sprite 画像の作成・管理サービス「spritebox.io」  
（2018年9月にリリース予定）
  - Twitter ユーザーのプロフィールから文字列を検索するサービス「Twitter プロフィール検索」  
（Twitter 自体に同等の機能がついたため、現在は閉鎖）
  - その他

### 1998年1月 - 2001年5月

アメリカ合衆国カリフォルニア州法人 People Network, Inc. シニアソフトウェアエンジニア

- 自社プロダクト・ネットワーク管理システムのプロジェクトマネージメント・設計・開発を担当（成果は NetWorld + Interop 2000 Las Vegas に出展）
- Apple/Oracle/Phone.com などソフトウェア開発プロジェクトにコントラクターとして参加

**1995年4月 - 1997年12月**

**個人事業オフィス ORA 代表**

- マイクロソフト株式会社のオンライン/CD-ROM 百科事典「エンカルタ」・辞書「ブックシェルフ」のプロジェクトに参加。編集システムの開発・ローカライズ、およびデータベース管理業務を実施

**1990年4月 - 1995年3月**

**株式会社リコー ソフトウェアエンジニア**

- リコー社内 SE が SI 実施時に利用するライブラリの開発  
特に手書き・活字文字認識技術の研究・開発を担当
- フラットベッドタイプのイメージスキャナー製品用のスキャンユーティリティの開発（MS-DOS, Windows, OS/2 向け）
- Windows 向け文字認識パッケージソフトウェア「認識工房」の設計・開発

**学歴** 工学院大学 - 工学部 電子工学科  
1990年3月卒業

**自己 PR** **「IT プロジェクト = 価値を生み出し続けるモノ」**

25年以上 IT 業界でコンサルタント、プロジェクトマネージャー、システム設計者、システム開発者、ソフトウェアエンジニアといった様々な形で活動してきましたが、どんな立場であっても一貫して言ってきたことは「**IT プロジェクトは価値を生み出し続けなければ意味がない**」ということです。

IT は常に新しい波が生じますし、それらを追いかけて「正解」の無い中で長く使える仕組みを生み出す為に冷静にできるだけ正確な判断をし続けなければいけません。兎角冷静さは失われ目先の価値にすぎる短絡的な判断をしてしまうことが多く「プロジェクトにおける無駄」は生じがちです（時には「価値創出」のことが蔑ろにされる IT プロジェクトすらあります）。

こういった「無駄」を最小限に抑えるには、経験や将来を見据える力が必要です。当方はこれを備えていますので、安定的に IT プロジェクトが価値を生み出し続けるようにリードしていくことが可能であり、この力こそが IT 業界における当方の存在価値と考えています。

**コミュニケーション能力**

IT プロジェクトにかかわらず、プロジェクトが価値を創出しつづけるものにするためには、以下の関係においてクオリティの高いコミュニケーションが必要と考えています。

- プロジェクトオーナー（経営陣や顧客など）とチーム
- 成果物の利用者とチーム
- チーム内

簡単そうに見えるこれらの関係におけるコミュニケーションは、時に軽んじられることもあり「価値を創出し続ける」ことに支障をきたすことがあります。

当方は、クオリティの高いコミュニケーション能力を有し、コミュニケーションにおける問題についても事前に察知したり、起こった問題に迅速に対応する能力を有していますので、IT プロジェクトの運営に力を発揮できます。

**問題解決能力**

時に「炎上中の IT プロジェクトの沈静化」を要望されるケースがあります。

技術的判断もことごとく失敗し破綻しており、関わっている人たちの感情がぶつかりあい、複雑な状況になっている IT プロジェクトを正常化するのとはなかなか大変なことですが、

- 情報整理
- 状況把握
- 適切な人材の配置転換（感情のぶつかり合いを考慮）
- 抱えている技術的課題への対応
- 最小限の人材の入れ替え

を、こだわりを捨てて我慢強く行うことで基本的には沈静化が可能です。

よく見聞きするのは、問題を整理することなくひたすらに人材を投入する（パワープレイでなんとかなるという希望的観測のもと）ケースですがそれでは殆どの場合沈静化は不可能です。

上記のポイントを適切なタイミングで、最小限のリスクで実施することが重要になるわけですが、当方はそういった経験を持ち合わせていますので、まずは「そういう状況にならない」ようにケアできますし、万が一なっても対応が可能です。